

世界美術紀行

－歴史と文明の十字路：トルコ－

[難波 平人](#)

私は世界の個性的な集落や遺跡を求めて70ヶ国余りを訪れ、絵画の制作を続けている。1995年には文化庁芸術家特別派遣としてトルコに3ヶ月滞在し、アンカラ大学とガジ大学で作品展も開催した。それ以外にも度々トルコを訪問し、この国に魅了されてきた。

トルコはアジアとヨーロッパを結ぶ要衝の地であり、歴史や文明の十字路となっている。先史時代からヒッタイト古王国時代、ギリシャ時代、ローマ時代、ビザンチン帝国、イスラム諸王朝、そして現在の共和国時代へと続き、古くから多くの民族がこの地を駆け抜け、その中で築き上げられた壮麗な遺跡や文化遺産には悠久の歴史を感じさせられる。

こうした理由もあって今回はトルコを取り上げ、その時々私のスケッチや油絵作品、写真などでトルコの歴史と魅力紹介したい。



2012年4月17日 TSS文化大学で講演する筆者

(1) アナトリア文明博物館

15世紀の隊商宿と金属市場を博物館に改築したものである。文明の発祥地とも言われるトルコ東部のアナトリア半島に出現した旧石器時代からのほとんどのアナトリア文化財を展示している。特にヒッタイトの遺物には貴重なものが多く、ヒッタイト博物館とも言われる。また世界最古の集落と言われるチャタル・ホイックの神殿家屋が復元展示されるなど、世界に誇る博物館の一つである。



アナトリア文明博物館 (アンカラ)



儀式用水注 (焼成粘土)

ヒッタイト古王国時代 (BC1800~BC1200年) のユーモラスな牝牛を象った器 (水注)。素朴で 生命観にあふれた形が素晴らしい。アナトリア文明博物館蔵。

(前ページの説明文)

(2) ケルスス図書館

ローマ帝国のアジア州執政官ケルススを偲び、息子のテイベリウスが墓室の上に建設した。117年完成したが、262年ゴート人の襲撃で焼失した。1970年代に修復されている。正面に知恵、運命、学問、美德を象徴する4体の像のレプリカが立つ。オリジナルはウィーンの博物館にある。1万2000冊の書物が所蔵されていた。



ケルスス図書館 (エフェス)

(3) ベルガモン王国の遺跡

紀元前282年に興ったベルガモン王国の遺跡の一つに、1万5千人を収容できた大規模なアクロポリスの大劇場がある。丘の南西の急斜面を利用して作られ、劇場からの景色も素晴らしい。



大劇場 (ベルガマ、スケッチ)

(4) ヘラクレスの門とハドリアヌスの門

ヘラクレスの門は、2世紀に建造されたヘラクレスの彫刻を施した左右対称の門である。クレティア（聖職者）通りの入口を守る門でもある。すぐ近くのメミウスの碑に置かれた勝利の女神ニケのレリーフはこの門のアーチに飾られていた。



ヘラクレスの門 (エフェス、スケッチ)



ハドリアヌス門 (エフェス、スケッチ)

ハドリアヌス門は、2世紀のローマ皇帝ハドリアヌスに捧げた神殿の入口に立つ。138年に完成し、アーチの最上部には女神ティケが、壁面にはエフェス建国の伝説、猪、神々、皇帝テオ

ドシウスなどが描かれている。オリジナルはセルチュクのエフェス考古博物館にある。細密の装飾が美しい。

(5) アスクレピオン

アスクレピオンはベルガマの市街西部にあり、ラジウム温泉療法や薬草療法などが行われた複合的医療センターの大遺跡である。紀元前4世紀、ギリシャ神話で医学の神アスクレピオンに捧げられた。伝説ではベルガモンの青年アルキアスがギリシャで治療を受けた時、医術を学び帰郷してこのセンターを築いたと伝えられている。



アスクレピオン (ベルガマ、水彩)

(6) ドミティアン門

AD84～85年にドミティアヌス帝を称えて造られた。3つの連続アーチと円筒形の石積みは大通りの北端の門で、ローマ様式をよく残している、ローマン・ゲートとも呼ばれる。



ドミティアン門 (パムッカレ、水彩)

(7) ブルーモスク

ブルーモスクの正式名はスルタンアフメット・ジャミイでスルタンアフメット1世が建設し、7年間で費やして1616年に完成した。大ドームを中央に4つの副ドーム、30の半円ドーム、6本のミナレット（尖塔）、2万個以上のイズニックタイルを使用。青色のタイルやステンドグラスが美しい、オスマン建築の傑作である。



ブルーモスク (イスタンブール、水彩)

(8) アンカラ城

城壁は2重、基礎はローマ時代、内壁は7世紀にアラブの侵攻に備えてビザンツ帝国が建設。外壁は9世紀、ビザンツ皇帝ミハイル2世が増強。北の丘上に独立した城アクカレ（白い城）がある、城内に市民の住む旧市街が共存するのが特徴である。



アンカラ城 (水彩)

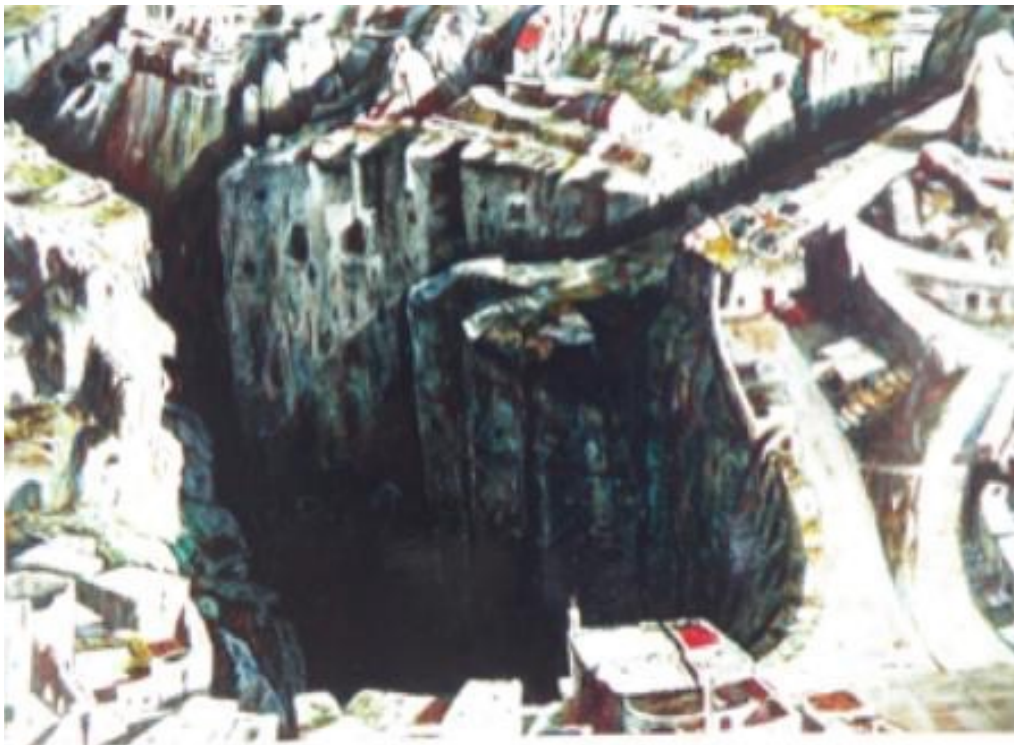
(9) カップパドキアの造形

カップパドキア、オルタヒサールの町の中央にある、高い城砦から取材した油絵作品。崖の下部には古い時代の住居跡が残され、崖の上には現在の住居が共存する。自然と共に生きた圧倒的な光景の中に人間の住まうことの意味を表現しようとした作品。



悠遠I, 200号P (油彩)

カッパドキアの長い年月をかけて大自然が造り出した造形は世界に類を見ない。真中の黒っぽい大きな穴はブラックホールを想定して描いた。厳しい風土で生きる人間の生の真実を表現したかった。



「深淵」 200号F (油彩)

(10) カデイフェカレ城塞跡

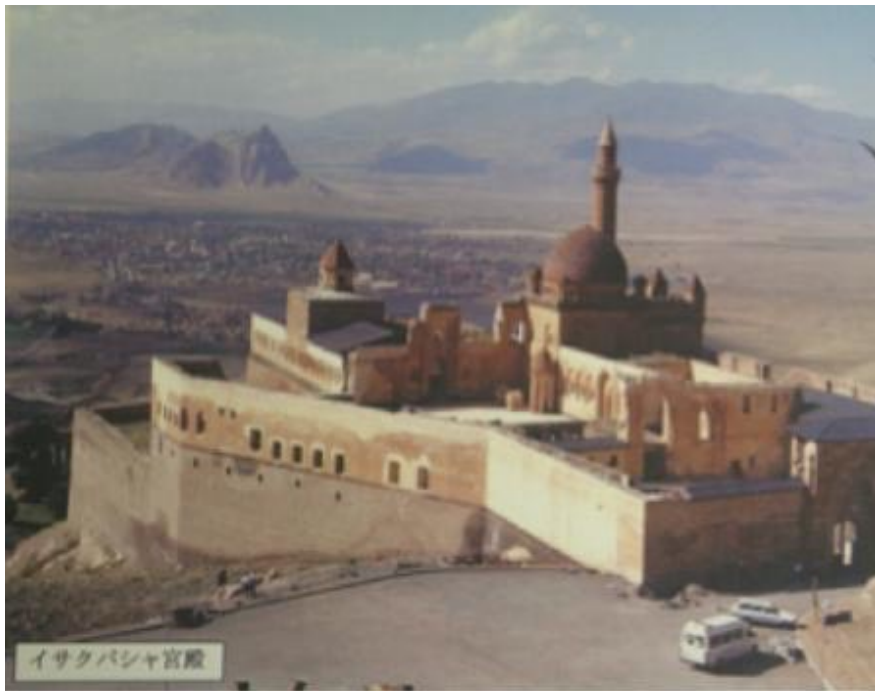
BC4世紀にアレキサンダー大主の命によりペルシャの侵攻を防ぐため、イズミールに造られた城塞である。現在残っている遺跡はビザンツ時代の物、ここからの「エーゲ海の真珠」と称されるイズミールの街並みの眺めは絶景。



カデイフェカレ城塞跡 (イズミール、スケッチ)

(11) イサク・パシャ宮殿

クルド人の王宮。東部イラン国境の近くの山腹に立つ。知事イサク・パシャによって建造が始まり、99年の歳月をかけ孫の時代の1784年に完成。部屋数366、ジヤミイ、ハレム、浴室など保存状態もよく、雄大な景色と共に見事だ。.



イサクバシャ宮殿

イサクバシャ宮殿 (ドウバヤズット)

(12) アナドル大学芸術学部

アナドル大学はエキシェヒールの町にあり、立派なホテルやレストランが併設されている。陶芸科は陶芸家養成、陶芸デザイン、研究者養成の3コース。彫刻家コースは鉄の抽象作品を多く制作していた。絵画コースはイメージ画が多く、大学院修士5人、博士課程3人在籍、抽象作品が主流。他にアンカラ大学など美術コースの博士課程が充実していた。



アナドル大学芸術学部 (エキシェヒール 水彩)

旧石器時代から1万年もの悠久を誇るトルコ。多様な時代の多彩な遺跡が数多く残っている。世界一親日的なトルコ人などその魅力はとても語り尽くせない。これからも機会がある度に交流を深めたいと思っている。

T S S文化大学講演会ではトルコの旅で購入した食器、水差し、陶器、楽器、それに多くのスケッチを持参し、披露した。

(本稿は2012年4月17日 T S S文化大学で行った講演の概要である。)